

長岡宮第一次内裏(西宮)回廊推定遺構の保存についての要望書

2010年12月 24 日

文化庁長官 玉井日出夫様
京都府知事 山田 啓二 様
京都府教育長 田原 博明 様
向日市長 久嶋 務 様
向日市教育長 奥野義正 様

乙訓の文化遺産を守る会
会 長 都出 比呂志

日ごろは、文化財保護行政推進のためにご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会は、乙訓地域の文化遺産を学び、地域の財産として活かしながら将来に伝えることを目的とする乙訓在住の市民団体です。

このたび、向陽小学校の校舎建て替えに伴い発掘調査が行われ、12月19日(日)に現場説明会が開かれました。このような調査成果公開の努力についても、敬意を表するものです。

さて、この発掘調査では、去る12月18日(土)各社朝刊紙上では、長岡宮第一次内裏(西宮)の回廊と推定される遺構が発見されたと大きく報道されました。今回の発見は、桓武天皇が長岡宮へ遷都した当初の内裏(西宮)の所在を解明する上で、きわめて重要な遺構です。大極殿院・朝堂院、第二次内裏など、これまで遺跡の調査保存に努めてこられた向日市の積年の努力の延長線上での発見として高く評価されるものです。西宮は「続日本紀」の記述からその存在が指摘されていましたが、その位置や規模などはまったく不明でした。その謎に迫る大きな手掛かりとなる遺構が初めて確認されました。しかも発見された建物や石組の溝は残りが良いだけでなく、回廊の北西隅にあたり、建物を復元する定点となるものです。

向日市は、京都府や国と力を合わせて長岡京跡の発掘調査を丹念に実施し、「幻の都」といわれた長岡京の実態を一步ずつ解明され、保存と活用に努められてきました。近年では、朝堂院南門で発見された翔鸞楼の遺構を買収、ことし6月にトイレ付きの案内・休憩所を備えた公園として整備され、安心して史跡見学できるようになりました。このたびの校舎改築は、将来の向日市を担う子どもたちを育成する上で、欠くことのできないものです。しかしながら、1200有余年前の眠りからさめた重要な遺跡は場所を選ぶことはできません。校舎の位置や設計を見直していただき、かけがえのない歴史の証、子どもたちに語り伝えるふるさとの教材として保存・整備していただきたいと考えます。

つきましては、関係諸機関に対して下記のとおり要望いたします。

記

- 1、遺跡を破壊することなく、現地保存の措置をはかってください。
- 2、学校教材として活かせるようガイダンス施設を設けた整備を行ってください。

追記:なお本状要望の項目につき、文書での回答をお願い致します。

乙訓の文化遺産を守る会 事務局

〒617-0006 京都府向日市上植野町地後 10-12 坂下 勝美 宅